

# 沖縄県で用いられているカツオ餌料魚 採捕用漁具漁法

## 1 採捕用漁具漁法

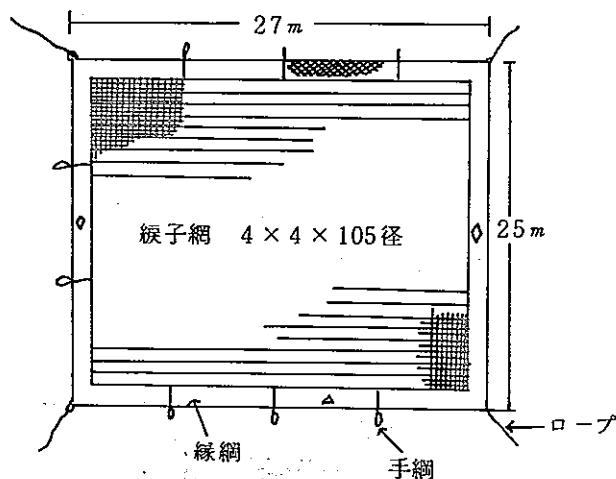
### (1) 四艘張網

鰹釣漁業の餌取用網として使用されてる。この四艘張網は魚種とか漁場とかによつて漁法をかえて使用している。即ち(1)追込式の場合と(2)火光利用の場合とが行われている。

#### 漁具講造の大略

##### 1) 追込式で操業する場合

12～13日と27～28日ごろの朝の干潮の時刻本船とくり舟2隻で網を敷設し、網の四辺の縁を本船に、他の2ヶ所の角からは、くり舟にロープをとり網をすぐ引き揚げられるように準備する。

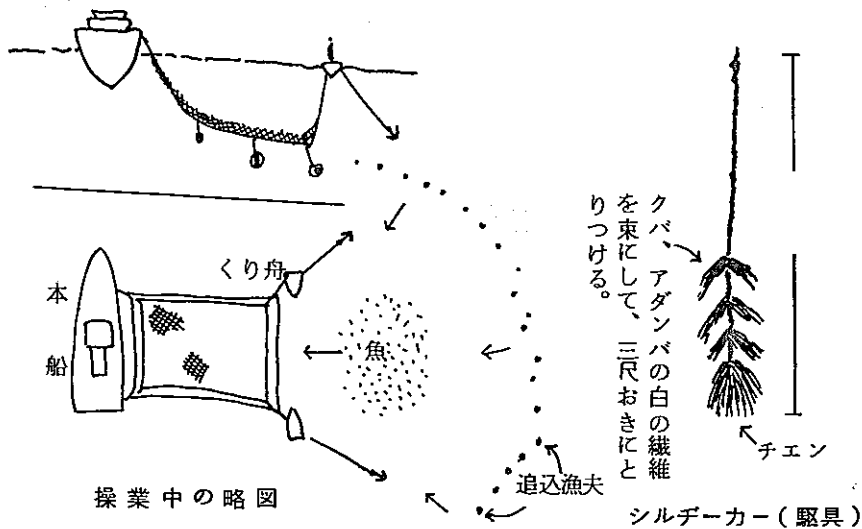


#### 漁具資材

猿子網	綿	4×4×105径	51枚
縁網	綿	20本合×25寸目	60掛目
あば網	クレモナ	450本	
手網	"	"	
ロープ	(2～3分)	1巻	
浮子・沈子			
出来上り		25m×27m	
縮結		40%	

四艘張網

追込用のシルデーカーを1本づつもって追込漁夫20人程度で遠方から魚の群を威嚇して網上駆集させて、網を引揚げる趣向である。沈子は潮の流れの速い時には取りつけない。漁場は伊平屋島周辺とくに島尻と田名の地先と伊是名村の屋那覇島の外側のリーフ外縁一帯、魚種はバカジャコ、サネラー、ヒチャー等が主。

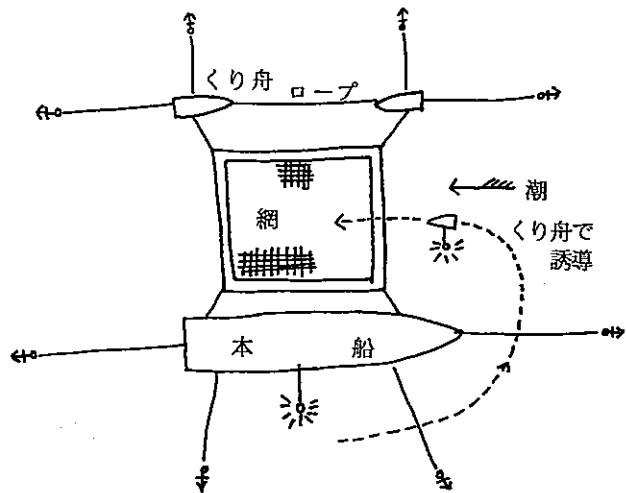


2) 火光を利用する場合

主として運天港でタレクチ、ドロクイ、キビナゴ等を捕獲する場合に行っている。本船とくり舟に水中集魚灯（1個使用、白色、250W）をそれぞれ1個ずつとりつけ水深1mぐらいのところまでおろし魚を誘致するのであるが、この場合電源はロープ付コードで本船からとっている。集魚の状態をみて本船の灯のところそれぞれ魚群を誘導してきて本船の灯だけで魚群を馴れさせる。（約30分間）その間左舷側では網の敷設をする。

即ち、網の2ヶ所の角からのロープは本船に、他の2ヶ所の角からのロープはそれぞれくり舟にとり網をおろし、水深10~15mのところを水平に敷設する。

敷設後灯舟で魚群を誘導し網の上に乗せて引揚げの仕組である。誘導は船首、船尾、船底側いづれからでも行っているようであるが、この場合潮の流れと同じ方向に誘導している。本船とくり舟3隻と16人程の漁夫で大体一晩で2回操業している。



(2) 棒受網

漁具及方法

操業方法は集魚灯を船中央部から船首に回し500W燈1ヶで船首に魚群を移動させた後網入れを行い網成りをみはからい集魚灯を再び船中央に移し70Vまで電圧を下げて魚群を浮上

させ乗網させるようにした。揚網に当っては先ず網の側辺を締めるように操作し、同時に身網を引揚げて完全に魚の脱出を閉鎖した後張出竹を除々に船内に引入れて魚を魚取部に集めて漁獲した。棒受網の構成については図1、仕様書については表1を参照されたし。

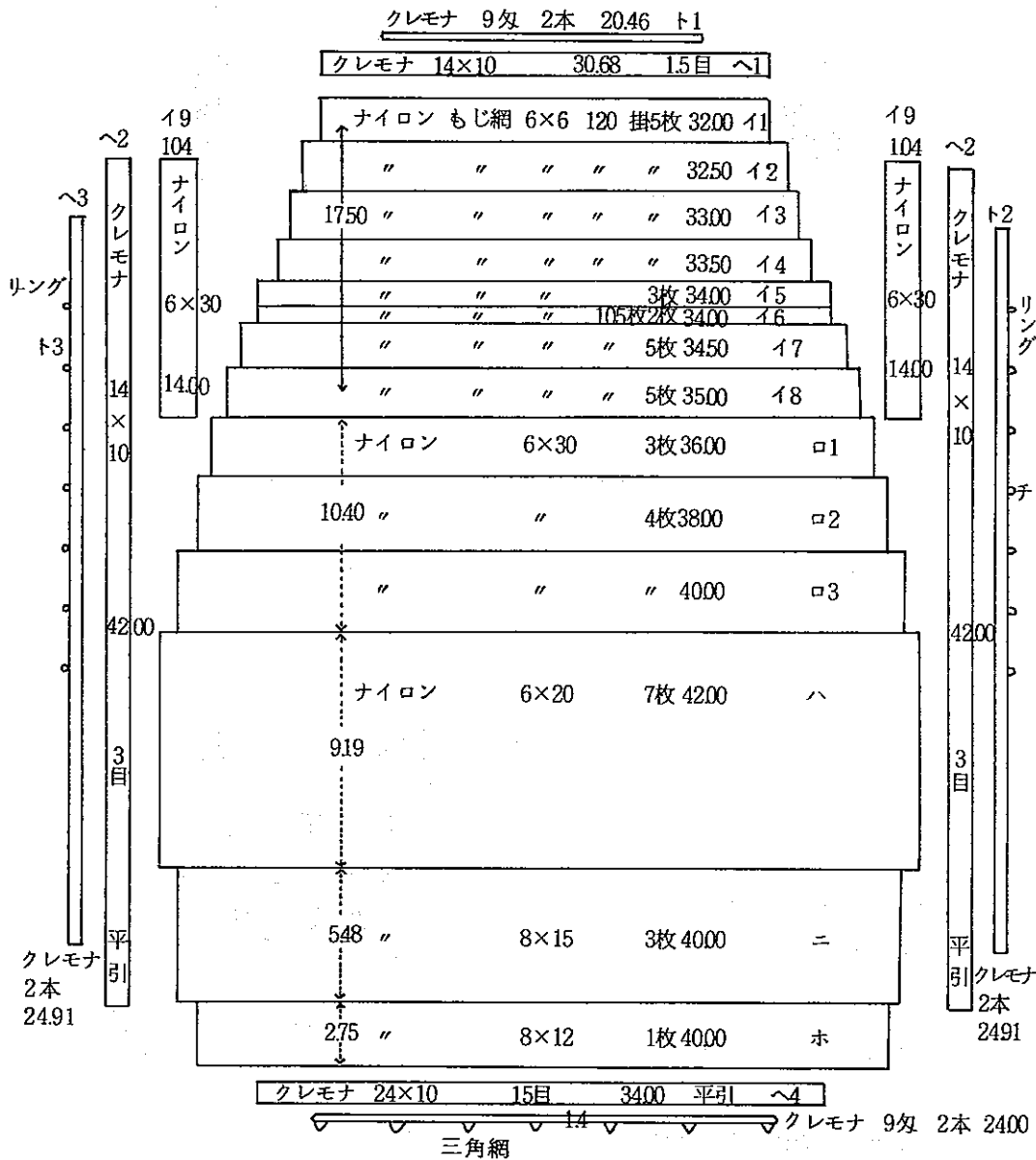


図-1 棒受網構成図

縮	浮子方	3408	04	2046
	測方	4532	045	2491
	沈子方	40.00	04	24.00
結	リング 40mm径(直径)	16ヶ		
	三角網	7ヶ		

表-1

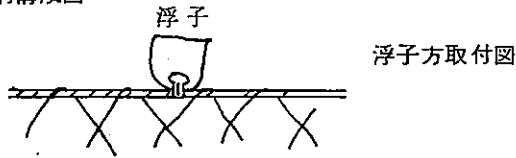
仕 様 書						
名 称	符 号	品 目 及 び 規 格	枚 数	所 要 数	反 数	摘 要
魚取部	イ1	もじ網 ナイロン 6×6×120掛	5枚	3200 × 5 = 16000	757.00	1反=151 <sup>m</sup>
"	イ2	" "	"	3250 × 5 = 16250		
"	イ3	" "	"	33 × 5 = 16500		
"	イ4	" "	"	3350 × 5 = 16750		
"	イ5	" "	3枚	3400 × 3 = 10200		
"	イ6	" 6×6×105	2枚	3400 × 2 = 6800		
"	イ7	" "	5枚	3450 × 5 = 17250		
"	イ8	" "	5枚	3500 × 5 = 7500		
"	イ9	ナイロン 6×30	2枚	1400 × 2 = 2800		
身網部	ロ1	" "	3枚	3600 × 3 = 10800	448.00	
"	ロ2	" "	4枚	3800 × 4 = 15200		
"	ロ3	" "	4枚	4000 × 4 = 16000		
"	ハ	" 6×24	7枚	4200 × 7 = 29400		
前網部	ニ	" 8×15	3枚	4000 × 3 = 12000		
"	ホ	" 8×12	1枚	4000 × 1 = 4000		
緑 網	ヘ1	クレモナ 14×10 1.5目平引	1枚	3068 × 1 = 3068		
"	ヘ2.3	" 14×10 5目平引	2枚	4000 × 2 = 8000		
"	ヘ4	" 14×10 15目	1枚	3400 × 1 = 3400		
緑 縄	ト1	" 9 匁	2本	2046 × 2 = 4072		
"	ト2.3	" "	4本	2491 × 4 = 9964		
"	ト4	" "	2本	2400 × 2 = 4800		

(3) 追込み網

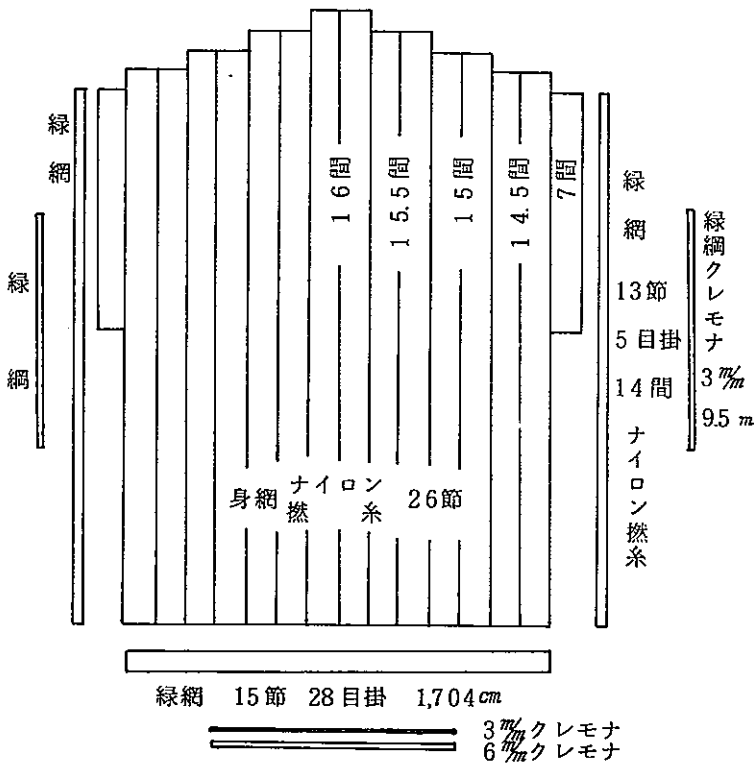
網は浮子方を水面に浮子で浮かし、沈子方は補助沈子をつけて海底（リーフ）につけ、沈子側の両側の両角からは、すぐ引揚げられるように船にロープをとつて敷設をする。（この時網は潮の流れに向けて敷設する）。追込み方は四艘張網の場合のそれと同じく魚の駆具用のシル

ジーカーを使用して12~13人の追込漁夫で遠方から網中に追いこんでいつて引揚げる趣向である。

追込み網構成図



浮子 (杉) 25 cm 間隔 50 個  
 浮子網 124 cm ナイロン 6<sup>m</sup>



## カツオ餌料標本船調査表

光 徳 丸

昭和53年6月

日	操業回数	アシチンkg	タイクチkg	ミズンkg	シーラーkg	計	備 考
1							
2							
3							
4							
5	3	120	8			128	
6	2	8	8			16	不 漁
7	2	12	8			20	”
8	2	12	12			24	”
9	2	12	8			20	”
10	2	120	120			240	やゝ大漁
11	2	160	360			520	大 漁
12	1	120	60			180	生巢不足のため1回操業
13		休	業				
14	2		60			60	不 漁
15	2		20			20	”
16	2	100				100	
17		休	業				
18		”	”	(悪天候のため)			
19				(餌に予備あり)			
20		”	”				
21	2	—	—			—	月夜のせいか全々だめ
22	2		120			120	2回目月夜のためなし
23	2		40			40	海上しけのため源河より運天港へ
24	2	40				40	タイクチ全々なし
25	3	200				200	やゝ大漁
26	3	200	40			240	”
27	3	60				60	3回の操業とも不漁
28	2	320				320	2回操業とも池巢1ヶ分
29	2	400	400			800	共に大漁
30	2	240	—			240	大 漁
31							

## カツオ餌料標本船調査表

光 徳 丸

昭和53年7月

日	操業回数	アシチンkg	タイクチkg	ミズンkg	シーラーkg	計	備 考
1							
2	2	320				320	大 漁
3	2	320				320	"
4	2	120				120	不 漁
5	2	120				120	タイクチ無し
6	2	240				240	やゝ大漁
7	2	120				120	不 漁
8	1	120				120	"
9	2	80				80	"
10	2	200				200	"
11	2	40				40	"
12	2	40				40	"
13	2	120				120	"
14	2	80				80	"
15	2	120				120	やゝ大漁
16	3	240				240	大 漁
17			休 業				
18	2	100				100	
19	2	20				20	月の光が強烈で魚寄り つかない
20	2	12				12	"
21	2	20				20	不 漁
22			台風6号のため休み				
23			7号 "				
24			休 み				
25			"				
26			台風対策休み				
27			台風接近休み				
28			台風休み				
29			"				
30			"				
31	2		60			60	台風余波のため海上しける

## カツオ餌料標本船調査表

光 徳 丸

昭和53年8月

日	操業回数	アシチンkg	タイクチkg	ミズンkg	シーラーkg	計	備 考	
1		台風余波のため海上上げて休み						
2	2	40				40	不 漁	
3	2	12				12	"	
4	2	40				40	一時夕方の雨で源河沖は海水がにごって不可能	
5	2	20				20	海上上げて風、波共に荒れる	
6	2	100				100	海上しける	
7		海上しけのため休み						
8	2	40				40	不 漁	
9	3	160				160	やゝ大漁	
10	2	40				40	不 漁	
11	2	20				20	悪天候で魚よりつかない	
12	2	40				40	不 漁	
13	2	240				240	第1回目月の明かりが強くだめ	
14		台風接近で休み						
15		"	"					
16	2	4				4	不 漁	
17	3	320				320	一晚中雨だった。大漁	
18		盆 休 み						
19		"						
20	3	400				400	大 漁	
21		海上しけのため休み						
22	2	80				80	不 漁	
23	2	40				40	"	
24	2	40				40	源河で3時間点灯し全々だめで津波沿岸へ移動	
25	3	160				160	やゝ大漁	
26	3	100				100	海上にごって不漁	
27	1	60				60	未明の操業は発電機故障のため失敗	
28	2	160				160	やゝ大漁	
29	1	な し				—	風雨、波共に強く不可能	
30		台風接近のため休み						
31		"	"					



## カツオ餌料標本船調査表

光 徳 丸

昭和53年9月

日	操業回数	アシチンkg	タイクチkg	ミズンkg	シーラーkg	計	備 考
1	1	なし				—	場所2ヶ所も移動
2	2	120				120	風、波共に荒れて無理操業
3	1		40			40	運天港より源河海に移動
4	2	120				120	不 漁
5	2	120				120	”
6	2	160				160	
7	3	100				100	不 漁
8	3	40				40	”
9	2	12				12	”
10	1	160				160	一晩中雨に打たれる
11	1	60				60	津波より源河に移動
12	1	60				60	台風18号のため 天気悪し
13			休み				
14			”				
15	2		60			60	月の光が強く 魚が寄りつかない
16	1		60			60	不 漁
17	1					—	月の光が強く 魚が寄りつかない
18	2	8				8	”
19	2	8				8	大雨のため 海水にごってだめ
20	3	80				80	不 漁
21	2	120				120	”
22	2	40				40	”
23	3	40				40	”
24	3	40				40	”
25	3		120			120	”
26	3	12				12	”
27	3			600		600	大 漁
28	2			400		400	”
29			休み				
30	2			240		240	大 漁
31							

## カツオ餌料標本船調査表

光 徳 丸

昭和53年10月

日	操業回数	アシチンkg	タイクチkg	ミズンkg	シーラーkg	計	備 考
1	2	—		40		40	不 漁
2	2	8				8	”
3	1	—	—	—	—	—	海水がにごり 魚よりつかない
4			休 み				
5		運天港より引き揚げる					
6	1			600		600	四ツ張り始める
7	1			240		240	大 漁
8			休 み				
9	1			800		800	大 漁
10	1			200		200	”
11			休 み				
12			”				
13			台風接近				
14			”				
15			”				
16			”				
17	1			60		60	不 漁
18	2				80	80	”
19	2			400		400	大 漁
20	2			240		240	”
21	2			320		320	”
22			休 み				
23	1			400		400	大 漁
24	1			200		200	”
25	1			1,600		1,600	最高の水揚
26			休 み				
27			”				
28		海上しけのため休み					
29		”	”				
30		”	”				
31		”	”				

## カツオ餌料標本船調査表

光 徳 丸

昭和53年

月	操業回数	アシチンkg	タイクチkg	ミズンkg	シーラーkg	計	備 考
6	45	2,204	1,264	—	—	3,468	
7	40	2,592	60	—	—	2,652	
8	47	2,116	—	—	—	2,116	
9	54	1,300	280	1,240	—	2,820	
10	39	8	—	5,100	80	5,188	
合計	180	8,220	1,604	6,340	80	16,244	